

三原市久井歴史民俗資料館 vol.45

モーモー通信



むかしはなし 昔話 にでてくる民具③



今回は、昔話「笠地藏」に出てくる昔の道具を紹介しします。笠地藏は、みなさんもよく知っている昔話ではないでしょうか。

昔話「笠地藏」とは

あらすじ 昔ある雪深い村に、おじいさんとおばあさんが住んでいました。大みそかなのに、もちをつくお米もないので、おじいさんは自分で作った笠を町で売ることになりましたが、一つも売れませんでした。

その帰り道、雪がふりはじめたので、おじいさんは蓑を着て帰る途中、雪をかぶった道端のお地藏さまを見かけると、かわいそうに思い、売れ残りの笠をかぶせました。笠が足りないお地藏さまにも、自分の手ぬぐいをかけました。

帰宅して、おじいさんがお地藏さまのことを話すと「それはよいことをした」とおばあさんは喜びました。するとその夜にお礼に米俵やごちそうがお地藏さまから届いた…とさ。



か 笠

笠とは、雨や雪、日光等が当たらないようにするため、頭にかぶる道具です。顔を隠すのに用いることもあります。素材は、主にいぐさ・わら等で、中四国地方では、竹の皮が多く用いられました。

作り方は、竹の骨組みに素材を縫いつけたり、編んだりする方法があります。笠の呼び名は、素材から呼ばれる他、作り方から「編笠」見た形から2つ折になる「つま折笠」等とよばれることもあります。また、毎月三度、江戸と大坂を往復する飛脚が着用した「三度笠」もあります。



たけひがき 竹皮笠



みの蓑



カパミだいたも



しょうわ 昭和30（1955）年 さつえい おかわらのりお 撮影：岡村徳男

蓑とは、ゆき あま ひ よけのために着るそとぎ にもつ はこ 荷物を運ぶときは肩あてにもなり、地域により素材も形もさまざまです。

素材には、わら・すげ・いぐさ・シュロ・フジ等、くさ じゅひ ほか かいがんぶ 草や樹皮の他、海岸部では海藻も使われました。下半身をおおう腰蓑もついています。

現在、資料館では第四展示室で、企画展「モノ語りの道具展」を開催しています！今回ご紹介した、笠や蓑もご覧いただけます。

くわしくはこちら →市HP



せんりやく失敗

資料館 ロビー



みんなでつくった！三原市のジオラマ

しりょうかん みはらし てんじ 資料館ロビーに三原市のジオラマを展示しています！

こちらは、8月19日に開催した、夏休み子ども体験講座「3Dプリンターでつくる！ふるさとのジオラマ」において、受講生17名で作成しました。

どうぞ、見に来てください♪



つづきは資料館で ...

〒722-1303

三原市久井町下津 1397

三原市久井歴史民俗資料館

TEL・FAX 0847-32-7139

休館日 月曜日（月曜日が祝日の場合、翌日休館）、年末年始

アクセス 中国バス久井中停留所下車

ごあんない図

